

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.16



陽光柔らかな春の陽気に包まれる心地よい季節となりました。新年度がスタートして1カ月が経ち、新たな出会いや環境にも慣れ始め、それぞれのお立場で日々活躍されていることと存じます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大は、全国的に高止まりの状態が続き、「第7波」突入とも言われています。

最近の感染状況を見ますと、特に子どもの感染が後を絶たず、非常に気掛かりな状況が続いています。

第6波で猛威を振るったオミクロン株「BA.1」に代わり、現在は感染力がより強いとされる「BA.2」が主流になりつつあり、さらには「XE」系統が新たに国内で確認されるなど、感染拡大は先が見通せない状況となっています。そうした中、4月末から大型連休が始まり、人の移動が活発になりますので、「感染しない、感染させない」という意識を常に持って、基本的な感染予防対策の徹底をお願いします。

★新作中型立佞武多「金太郎」に込めた思い

3月29日、新作中型立佞武多「金太郎」に最後の魂を吹き込む面の書き割りが行われました。中型とはいえ、通常の大型立佞武多にひけを取らない迫力と、五月人形をイメージした可愛らしさが同居する、大変魅力的ななぷたに仕上がったものと感動しました(裏表紙に掲載)。

誰もが知っている「金太郎」ですが、昔話では、山奥で育った金太郎は、森の動物を友とし、心優しく力持ちで熊との力比べで見事勝利する、というストーリーですが、この物語には先があり、金太郎は親孝行しながら武道と学問に励み、やがて京で出世して故郷に錦を飾るといふ一説があります。

私はこの「金太郎」に、未来を担う子どもたちの健やかな成長と、大人になってふるさとを離れたとしても立佞武多が心の拠りどころとなるよう、また、生涯のかけがえのない思い出となるよう後世に受け継がれていって

ほしい、そういう願いを込めています。

コロナ禍の影響により、2年間中止せざるを得なかった五所川原立佞武多ですが、感染状況を見極めながら、今年こそは何とか開催し、地域活性化の端緒となつてほしいと考えています。

そして、まつり本番は、たくさん子どもや親子連れの参加のもと、多くの市民、観光客の皆さんにぜひとも見ていただきたいです。子どもたちの元気な姿こそが地域の光です。子どもたちがまつりの主役として、笑顔が溢れるような、より素晴らしいまつりとなるよう行政としても支援したいと思っています。

★「産直メロス」が4月29日にグランドオープン！

リニューアルを進めていた金木観光物産館が「産直メロス」として4月29日にグランドオープンの運びとなりました。ご理解とご協力をいただいた地域の皆さん、出荷者協議会にご参加いただいた皆さんをはじめ、関係各位に対し心より感謝を申し上げます。

以前の「観光客、土産品中心の店」から「地元の農産物販売、地域住民中心の店」にコンセプトを転換し、金木地域の賑わいや活性化の拠点、地域住民の交流と生業(なりわい)創出の場として、地域内外の皆さんに幅広く愛され、金木地域の活性化の起爆剤となる施設として発展するものと期待しています。

当施設は、「株式会社かなぎ振興舎」が管理運営を担いますが、「産直メロス」の可能性を大きく花開かせるためには、地域の皆さんが主役となって、ここにしかない魅力を地域の皆さんで作り上げていただくことが重要です。行政といたしましても、五所川原市の新たな「顔」として成長するよう全力でバックアップしていきたいと考えていますので、市民の皆さんにも応援していただきますようお願いいたします。



新作立佞武多「金太郎」完成披露立ち合い



オープン前の『産直メロス』